

NPO 法人コモンビート設立 15 周年記念英語ミュージカル台湾公演

## 興心共舞！日本と台湾をつないだひとつの鼓動！

プロデューサー 安達 亮

日本台湾交流協会では、日台交流に有意義な催しに助成や名義を付与する形で協力しています。ここでは、NPO 法人コモンビートによる、多様なバックグラウンドをもつ若者 100 名が作り上げたミュージカルを、台湾の大学生の協力により、台北で海外公演を行なった様子をご紹介します。

コモンビートは 2004 年に東京都認証の特定非営利活動法人として世田谷区で誕生し、今年で 16 年目の活動となります。メイン事業である「A COMMON BEAT」ミュージカルプロジェクトには、これまでに約 5,500 人のキャストが参加し、ミュージカル公演への来場者は約 20 万人にのぼります。よさこい演舞のお祭りビックバンプロジェクト、国際交流のアジアンビートプロジェクトや学校訪問を行うスクールプロジェクトなどの表現活動を展開し、活動地域は関東（東京・群馬）・中部（愛知・岐阜・福井・新潟・静岡）・関西（大阪）・九州（福岡・鹿児島）・東北（宮城・秋田）、そして国外（タイ・台湾・フィリピン・韓国）にまで広がりはじめています。

### 台湾公演実現へのあらし

国際交流を行う「アジアンビートプロジェクト」の交流先として 3 年ほど前から台湾の市民団体の「シングアウト台湾」と連携を始めました。歌や踊りを中心に大学生に国際交流の機会を提供する活動趣旨と合致したためです。アジアンビートプロジェクトで交流をする当初から、シングアウト台湾から要請があったのが、「A COMMON BEAT」ミュージカルプロジェクトのミュージカ

ル公演の台湾開催です。しかしながら、その当時はコモンビートとしても海外の活動に不慣れで、アジアンビートプロジェクトの運営規模よりもはるかに大きいミュージカルプロジェクトを台湾で実施する体力はありませんでした。アジアンビートプロジェクトを毎年実施する中で、シングアウト台湾やそこに参加する大学生としっかりと関係性が築けて初めて、台湾でのミュージカル公演を開催できると話し合い、一度はお断りをさせていただきました。

その後巡ってきたタイミングがコモンビート設立 15 周年にあたる 2018 年です。この記念すべきタイミングであれば、今まで交流を続けてきた台湾で海外公演を開催することも、大きな夢として掲げることができますし、日本から約 100 名のキャストを台湾に連れていくためにも、面白い企画になると思い、一度はお断りしたミュージカル台湾公演の実現をシングアウト台湾に改めて相談しました。その頃にはアジアンビートに参加した台湾の若い仲間も 30 人以上になり、シングアウト台湾としても是非コモンビートの設立 15 周年記念英語ミュージカル台湾公演を実現したいということになりました。

そして、まずはミュージカル公演を行うホールを抑えることからプロジェクトはスタートしました。アジアンビートの若い仲間たちの多くが台中

出身者だったので、観客を集めるには台中で公演を行ったほうがよいのではないかと思い、最初は台中のホールを見学に行きました。1500人収容の立派なホールがあったので決定しようとしたのですが、集客事情やアクセスなども考えて、最終的にシングアウト台湾から勧められたのは台北の中山堂でした。

## 公演場所は台北市中山堂となる。

中山堂は若者の街「西門」にあります。東京でいうと渋谷か原宿にあたる感じでしょうか。台北市中山堂は1935年日本人の設計者により「台北市公会堂」として建設されました。第2次大戦後「中山堂」と名前を代えて台湾政府の公式行事の中心として利用された歴史を持つ台湾で最も由緒あるホールです。大ホールは1階席、2階席で合計1100人の観客を収容できます。シングアウト台湾はコモンビートの15周年記念特別公演を行うなら、歴史的にも意義深く、かつ若者の街にあるこの台北市中山堂でやりたいと言ってきました。

さっそく中山堂を視察してみたのですが、立派な劇場でバックステージも広くあるのですが、100人のキャストを乗せるにはステージが狭いという印象を持ちました。結局、フロントステージをせり出すことで何とか問題を解決し、15周年記念特別公演を台北市中山堂で行うことが決定しました。なかなか大きなホールなので、この会場を観客でいっぱいにするのかなという心配は残りました。

## キャストを募集、すぐに100人のキャストが決まる。

公演会場を決めて、2017年の11月15日にはコ

モンビートのホームページにキャスト募集を掲載しました。以前から15周年記念公演を台湾で行うことを口コミで広めていたので、キャスト応募はすぐに100人に到達しました。日本全国のOB/OGキャストが集まって、台湾に海外公演にいくというなんともアドベンチャーな企画に、心が踊ってくれたようです。また、ミュージカルの演出はコモンビートの発起人であり長らく演出を務めてきた韓朱仙さんに依頼しました。もともとミュージカル「A COMMON BEAT」はアメリカで製作されたミュージカルで、日本では日本語化して上演してきましたが、今回は15年記念ということで原点回帰の意味も含め、すべて英語で公演することにしました。練習は2018年2月10日・11日、3月10日・11日、3月31日・4月1日の3回東京で合宿練習を行うことにしました。キャストは日本各地から、そして韓国からも集まってきます。プログラム参加費、合宿費、国内・国外移動交通費など全て自己負担でかけつける彼らのバイタリティにあっぱれです。

## 日本と台湾で協力し合いながら準備を進める日々

キャスト集めの目処も立ち、練習も進む中、申請していた日本台湾交流協会からの助成金も決定してすべて順調に進んでいましたが、私たちの心配は、台湾公演を満員にできるかというところでした。あれだけの力を投じてキャストが台湾まで行くのですから、満員の客席を準備したいという気持ちでいっぱいでした。

シングアウト台湾で今回のプロジェクトの受入担当のRobert ChenさんとKen Linさんはまだコモンビートの公演を観賞したことがありませんでした。であれば、現地でもなかなか集客につながる素材を持ち合わせていないと思い、ちょうど

1月28日に東京で行われた第3期日韓ミュージカル公演を観にきていただきました。どのようなミュージカルなのか、公演会場の雰囲気はどのようなものなのか感じていただきました。

そして3月3日～7日まで台湾に出張しました。シングアウト台湾の皆さん、アジアンビートの卒業生の方々に集ってもらい、どのように集客するか話し合いました。この中でアジアンビートの卒業生たちから動画を作って配信し、大学生を中心に若者たちを集めようとの提案がありました。台湾語版のチラシやポスターも完成し、動画の配信も始まり、本格的な集客活動が現地で展開されました。また、今回は公益公演という位置付けとなり、チケット料金は無料となりました。その分、会場費を減免していただきました。

4月の中頃になってシングアウト台湾から公演鑑賞の予約申込みが1000人を越えたとの連絡が入りました。なんと満員御礼になりました！まだ予約希望の方からの問い合わせが途絶えないということで、座席の調整・確保に追われる事態となりました。嬉しい悲鳴です。



## 台湾へ出発！！ 大学訪問プログラムも実施

さあ、いよいよ台湾へ向けて出発です。参加者はキャストとその家族、スタッフで合計123人となりました。キャストは4月28日から台湾に入るレギュラーステイグループと5月3日に入るショートステイグループの2グループに分かれました。レギュラーステイグループは4月30日に2つのバスに分乗して台中に向かい、1台は大葉大学に、もう1台は中臺科技大学を訪問し、学生との交流プログラムを同時開催しました。2校ともアジアンビートの大学生メンバーを毎年派遣してくれ、今までも何回か学生交流プログラムを行ったことのある大学です。大葉大学には学生400人が、中臺科技大学には200人が集まってくれました。

台中の学生交流が終わって5月1日と2日は自由行動となりました。台中から台南、高雄に旅行する人、台北に戻って九分に行く人、中山など台北の市内を散策する人などに分かれ、気心のあった仲間と台湾を楽しむことができました。夜市での料理、小籠包、牛肉麵、台湾スイーツ、タピオカ入りミルクティーなど全ておいしくて素敵な思い出になりました。





## ミュージカル公演の幕が開く！！ 中山堂には長蛇の列！

5月3日にはショートステイグループのキャストが入ってきました。3日の夜は宿泊先となっていた劍潭青年活動センターでウェルカムパーティーを行い、シングアウト台湾とコモンビートのメンバーが出会い、これから始まる2日間への士気を高めました。5月4日は中山堂での準備が始まり、舞台・音響・照明のテクニカルスタッフと現地サポートスタッフが連携して、ステージを作り上げました。夜にはキャストが会場に入り、ステージの様子を確かめながら練習を行いました。

ミュージカル「A COMMON BEAT」には「国境警備隊」というストーリーテラー（物語の進行役）の3人がいます。その3人には韓国、台湾、日本のキャストが配役されました。英語、韓国語、台湾語、日本語の4か国語を駆使してお客様に話しかけながら、ミュージカルを進めていくことになりました。

5月5日。いよいよ本番当日となりました。

中山堂の入り口には開演前から観客の長い列ができました。台湾のアジアンビート卒業生たちが総動員で受付と観客の誘導・対応を行ってくれました。そのころキャストは、お手伝いに来てくれた台湾

のメイク専門学校の生徒さん15人から言葉が通じないままに舞台メイクを施してもらっていました。その後ゲネプロも経て、本番前には気合い入れを行い、本番に向けての準備を着々と進めていきました。

公演のオープニングは台湾のアジアンビートキャストたちによるダンスパフォーマンスでした。その後、シングアウト台湾のRobert Chenさんが台湾側を代表して挨拶を行いミュージカル公演へと進んでいきました。中山堂は観客で満員になり、物凄い拍手の中、ミュージカルが始まりました。歌もダンスも素晴らしく、キャストの溢れるエネルギーで観客の皆さんを包み込み、会場が一体となりました。アンコールでは台湾で年代毎に人気のある曲を台湾語で歌って、台湾の観客を大いに盛り上げることができました。





終演後、キャストは中山堂のロビーで観客に握手攻めにあい、写真を一緒に取ったり抱き合ったりで、熱いひと時を過ごしました。キャストは台湾のメンバーと一緒に3台のバスに分乗して花博公園の打ち上げ会場に移動し、全員で真夜中まで大騒ぎをして楽しみました。

ここで、公演の後台湾のお客さんから寄せられたアンケートをいくつかご紹介します。

25歳 女性 新北市 「すごく良かった！最後と一緒に歌って踊るシーンが印象的だった。心から伝えたいと感じるメッセージを受け取った。これからも頑張ってもらいたい。また台湾に来てほしい。」

20歳 女性 彰化市 「今回のステージを見る機

会があって本当にうれしかった。一番印象に残ったのは4つの民族が融合した時。感動した。自分がやりたい事ができるのは本当に幸せなんだと見た後深く感じた。」

50歳 女性 台北市 「最後に歌った台湾の曲『童年』にすごく感動した。また台湾に来るときを待っています。」

25歳 男性 台北市 「一番印象に残ったのは3人の国境警備隊の演技。ストーリーのつながり、パフォーマンスの盛り上げがとても良かった。このような素晴らしいパフォーマンスを持ってきてくれて本当にありがとうございます。また台湾で公演をしてください。」

50歳 女性 台北市 「パンフレットのシーン紹介にすごく感動した。劇を見る前に何をしたいのかよく理解できた。ミュージカル自体も音楽と照明と一緒にリズムよく奏でてすごく感激した。劇場に入った時も順序よく、こころが落ち着いて入場することができた。」

60歳 女性 台北市 「ダイナミックな動きと静かなところの切り替えがすごく良かった。童年を台湾語で聞いて涙が出た。感動でした。ありがとう。また来てほしい。」

50歳 男性 台北市 「すごく良かった。見て泣きそうになった。一人ひとりの努力がすごいと思った。最後に台湾語の大合唱があった。感動だった。ミュージカルに字幕があれば歌の内容等もう少し理解ができたんだけど。」

20歳 女性 台北市 「キャスト一人ひとりプロ意識があって、劇のメッセージも良く、曲とダンスも素晴らしかった。すごいパワーをもらった。」

---

---

## 最後に・・・

---

---

台湾公演の集客、会場の準備、ポスターやチラシの製作、公演当日の観客の受け入れ、大学訪問の調整等多くの仕事を引き受けていただいた Robert Chen さんと Ken Lin さん、他シングアウト台湾の皆さん、アジアンビートプロジェクトのアラムナイの皆さんに心から御礼と感謝の気持ちを伝えたく思います。

また、キャストの航空券の手配、宿泊場所の確保等を行っていただきました秋山さんをはじめとする株式会社グランドツアーの皆さんのご協力に感謝します。そして、台湾公演の舞台・音響・照明の機材調達及び現地スタッフのコーディネートをしてくださった MSI 台湾の皆さん、そして台湾まで渡航してオペレートをしてくださった私たちの最高のパートナーである舞台監督木村篤さん、音響の株式会社サンフォニックスの皆さん、

照明の株式会社フォルテシモコミュニケーションズの皆さんにも感謝申し上げます。シングアウト台湾との連携において多大なるご協力をいただきました一般財団法人 MRA ハウスの皆様にも感謝申し上げます。

最後に、忙しい中この設立 15 周年記念英語ミュージカルに参加してくれたキャストの皆さん、本当にお疲れ様でした。

今思い返すと、この台湾での 1 週間は、アジアンビートプロジェクトでの積み重ねと、日本でコモンビートが 15 年間継続して上演してきたミュージカルの積み重ねが相まって、とても幸せに満ちた時間になったと思います。言葉の壁はあっても、歌や踊りがあれば繋がり合っていける。違いがあっても「共通の鼓動」があれば、友達になれるのだ！と強く実感しました。

これからも皆さんと一緒に冒険・挑戦して行ければと思います！

よろしくお願い致します！